

# 宗教の神秘 入 十字架へのはりつけ

5.0

明: めいたイエス キリストの十字架へのはりつけに する根 と を分析します。

目: [事比 宗教イエス キリスト](#)

目: [事比 宗教バイブル](#)

より: ロ レンス ブラウン

日 9 Jan 2015

集日 09 Jul 2023



キリスト教に する の中でも、キリストのはりつけ、そして 罪よりも めいたものはあり  
ません。事 キリスト教徒たちは、自分たちの救 をこの信条一つに委ねます。そして  
もしそれが本当に起きたのであれば、私たちも同じようにそれに委ねるべきではないで  
しょうか？

もしそれが本当に起きたのであれば、の ですが。

イエス キリストが 罪、つまり全人 の罪を背 い、 いをしたということは非常に こえの良  
いものです。もしも、他の かが自分の罪を ってくれたということ信じ、そうした信

仰のみによって天国に入ることができるのなら、私たちは皆、即座にそれを信じるべきではないでしょうか？

もしそれが本当に起きたのであれば、の ですか。

それでは、ひとつ してみましょう。私たちは、イエス キリストが十字架にはりつけにされたと教えられています。しかし、私たちは同 に、 にそれが疑わしいことであると明されたこと、あるいは事 に反するという多くの事も知らされており、念の にその事を してみるに越したことはありません。

それでは、人たちに ねてみましょう。福音 の著者たちの 解はどうなのでしょう？

しかし困ったことに、それらの著者は明らかになっていないのです。これはキリスト教においてあまり（いや、かなり）知られていない のひとつですが、新 の4福音 の著者は、そのいずれもが匿名となっているのです<sup>1</sup>

。それらを著したのが なのか、 も知らないのです。グラハム スタントンはこう述べています。「福音 はギリシャ ロ マの大半の 物と い、著者不明である。著者の名として冒に出されているもの（「…による福音 」）は元来の写本には存在しておらず、それらは2世 初 に付け加えられたものなのである。<sup>2</sup>

2世 に付け加えられたもの？ それは によってでしょう？

信じ いことに、それすらも匿名なのです。

しかし、そういったことには目を瞑るとしましょう。4福音 は の一部であり、私たちはそれらを 典として敬意を示すべきなのですから。

そうですね？

いえ、 うかも知れません。*The Interpreter's Dictionary of the Bible*????????????????

ではこのように述べられています：「新 には、原本の写本から完全に 一された文はひとつとして存在しないと云っても、 言ではないであろう。」<sup>3</sup>

それに加え、今では有名となったバ ト D エ ルマンの次の 言もあります：「比 の表 を使え

ば、恐らく最も容易であろう：我々の写本における相 は、新 の 数よりも多いのである。  
。」 [4](#)

くべき事 です。マタイ、マルコ、ルカ、そしてヨハネが述べていることは 失礼しました。匿名、匿名、匿名、そして匿名が述べていることは えっと、何だったのでしょうか？ 彼らは、私たちに何を えようとしていたのでしょうか？

彼らは、イエスが着ていた物、 んだ物、言ったことについて合意すら出来ていなかったというのに。マタイ27:28では、口 マ兵がイエスに深 の口 ブを着させたと述べます。

ヨハネ19:2では、それが紫であったとしています。マタイ27:34では、口 マ人たちがイエスに胆汁を混ぜた酸っぱいワインを与えたとされますが、マルコ15:23

では、混ぜられたのは没 であるとされています。マルコ15:25

では、イエスがはりつけにされたのは3 前であるとされますが、ヨハネ9:14 15

では「およそ6 」であるとされています。ルカ3:46

ではイエスの最 の言 は、「父よ、私の をみ手に委ねます」であるとされますが、ヨハネ19:30では「完了した」となっています。

ちょっと待ってください。イエスの な追 者たちであれば、彼の言 を き逃すはずがないとは思いませんか？

一方、マルコ14:50では、弟子たちは皆、ゲッセマネの においてイエスを てたのです。

しかし一部の人々は（おそらく弟子たちではなく、もちろん「匿名」の人々なのでしようが）、イエスの格言などを き逃すまいと耳をすましていながら、 なることを いたのでしょうか？

信じ いことですが、ここ以降も、福音 の はさらに一 性を欠いてくるのです。

キリストの 活が主 されている部分にも、4福音 （マタイ28、マルコ16、ルカ24、ヨハネ20）が同意する点はほとんどありません。以下はその例です。

墓地を れたのは なのか。

マタイ：「マグダラのマリアと のマリア」

マルコ：「マグダラのマリア、ヤコブの母のマリア、そしてサロメ」

ルカ：「ガリラヤから彼と共に れた女性」と「ある の女性」

ヨハネ：「マグダラのマリア」

なぜ彼らが墓地を れたのかについて。

マタイ：「墓地を するため」

マルコ：彼らは「彼に るための香辛料を持ってきたため」

ルカ：彼らは「香辛料を持ってきたため」

ヨハネ：理由には言及せず

地震は起きたのかどうか（それについては周 地の人々が 付かないことも忘れることも  
おそらくないであろうにも わらず）。

マタイ：起きた

マルコ：言及せず

ルカ：言及せず

ヨハネ：言及せず

天使は降 したのかどうか（天使ですよ？

あなたがたは3人ともこの件について 付かなかったとでも言うのですか？）。

マタイ：降 した

マルコ：言及せず

ルカ：言及せず

ヨハネ：言及せず

墓石を かけたのが かにについて。

マタイ：天使（彼以外の匿名者たちは、 付かなかったようです）

マルコ：言及せず

ルカ：言及せず

ヨハネ：言及せず

墓地にいたのは かにについて。

マタイ：「ひとりの天使」

マルコ：「ひとりの青年」

ルカ：「ふたりの男性」

ヨハネ：「ふたりの天使」

彼らはどこにいたのかについて。

マタイ：天使は墓の外 で、墓石に座っていた。

マルコ：青年は墓の中の「右 に座っていた。」

ルカ：ふたりの男性は墓の中で 合わせに立っていた。

ヨハネ：ふたりの天使の「ひとりはいエスの亡骸の の 所に座り、もうひとは足の 所に座っていた。」

イエスを最初に目 したのは かにについて。

マタイ：マグダラのマリアと「のマリア」で、弟子たちに会う道中で。

マルコ：マグダラのマリアのみで、所については言及せず。

ルカ：弟子の中のふたりが、エルサレムから 11キロ 離れたエマオという町に向かっていったとき。

ヨハネ：墓地の外でマグダラのマリアによって。

これでは、この 典が の意向によるものなのかと疑 を抱かせてしまいます。

しかしキリスト教徒たちは、イエスは私たちの罪のために死ななければならなかったとします。次は、それに する一般的な会 の例です。

一神教徒：では、あなたは神が死んだと信じるのですか？

三位一体 者：いえいえ、そういった考えは ててください。死んだのは人（としてのイエス）だけです。

一神教徒：その 合、つまり人 の部分だけが死んだのであれば、 性は神によるものである必要がなかったことになります。

三位一体 者：いえいえ。人 の部分は死にましたが、イエス／神は私たちの 罪のために十字架で受 しなければならなかったのです。

一神教徒：「しなければならなかった」とはどういうことですか？

神は何も「しなければならない」必要はないはずですが。

三位一体 者：神は 性を必要としますが、人 はそうしないからです。神には人 の 罪に必要な大きな 性が必要だったため、唯一の息子を遣わしたのです。

一神教徒：そうなのであれば、私たちは神に して なる概念を持っていることになりません。私の信じる神は、何も必要としません。私の神は、何かを起こすときに他の何かを必要とすることがありません。私の神は「これをしたいが、することが出来ない。

まずこの特定のものが必要だ。どこでそれを見つけることができるだろうか？」などとはしていません。そうしたシナリオの場合、神はその必要性をたず存在に依存していることになります。言えるなら、神にはより高い神の存在が必要になります。格な一神教徒にとって、それはあり得ないことです。なぜなら、神は唯一至高自者であり、あらゆる造物の源泉であるからです。人には必要性がありますが、神にはありません。私たちは神のき、慈悲、赦しが必要ですが、神はなにも引きえを必要とはしません。神は奉仕や崇をお望みにはなりますが、それを必要としているのではないのです。

三位一体者：要点はそこなのですよ。神は私たちに神の崇を命じ、私たちは礼によってそれを行います。しかし、神はでなる存在である一方、人は罪深い存在です。私たちは自らの不さと罪から、直接神にアプローチすることは出来ないのです。それゆえ、私たちには祈りを受け入れてもらうための仲介者が必要なのです。

一神教徒： です イエスは罪を犯しましたか？

三位一体者： いいえ、彼に罪はありません。

一神教徒： 彼はどれ位 なののでしょうか？

三位一体者： イエスですか？ 100%です。彼は神／神の子であり、100%神 なのです。

一神教徒： しかしあなたの基に沿えば、私たちは神にアプローチ出来ない以上に、イエスにもそう出来ないことになります。あなたの前提によれば、人が神に直接祈ることが出来ないのは、罪深い存在と100%神な存在の相反性によります。もしもイエスが100%神 なのであれば、彼が神よりもアプローチし易いということにはなりません。また、もしイエスが100%神 ではなかったのであれば、彼は多少なりともれた存在となり、神に直接アプローチ出来なかったことになるだけでなく、神ご自身、あるいは神の子、または神の同位者だったということにもなり得ません。

公平な推としては、めてな人物に会いに行くことがげられます。その人物は地球上で最もなる存在で、全身からその神さがほとばしっているような人物です。それで私たちは彼に会いに行きますが、「人」は面会に合意しないと前いをくらいます。彼は罪

深い人と同じ部屋にいたことが耐えられないと言うのです。私たちは彼の代理人とすることは出来るものの、人本人と会うことは到底理だと言われます。彼は私たちのような低俗な存在と同席するには神に驚かされるそうです。そのとき、私たちはどう感じるでしょうか？ それは神に、それとも狂気に驚かされるのでしょうか？

常に考えれば、人はアプロチしやすいはずですが、人であればあるほど、それは容易くなるはずですが。そうであれば、なぜ人と神との間に仲介が必要となるのでしょうか？

そしてホセア6:6に「わたしは慈しみを喜び、犠牲を喜ばない」とあるように、なぜ神はそのキリスト教徒の主とする「唯一の子」を犠牲に捧げるよう求めたりしなければならないのでしょうか？

ここからの教訓としては、新約のふたつの章句が挙げられます。ひとつはマタイ9:13、そしてもうひとつはマタイ12:7です。一体なぜ、人々たちはイエスが犠牲に捧げられなければならないしかなかったのかと驚くのでしょうか？

もし彼がそうして目的によって遣わされたのであれば、なぜ彼は自らの救いを祈ったのでしょうか？

イエスによる祈りは、ヘブライ人への手紙5:7によって明することが出来るかも知れません。そこでは、イエスは人間的な人物であったため、死からの救いを求めた彼の祈りに神は答えたと言われています。“キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、汗を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと涙をささげ、その畏れ敬うほどのゆえに聞き入れられました。”（ヘブライ人への手紙5:7）それでは、“神が彼の祈りを聞き入れた”とは、何を意味するのでしょうか？

神がその叫びを聞きながらも聞き入れなかったということでしょうか？

いいえ、それは神が彼の祈りに答えたということを意味しています。神がその祈りを聞いて、それを拒否したということにはなりません。なぜなら“その畏れ敬うほどのゆえに”という表現の存在は、“神は彼の祈りを聞いたが、彼は人間的な者だったためにそれを拒否した”といったような意味を成さない章句にはしないためです。

ふむ。ということは、それは元々イエスが十字架にはりつけにされてはいなかったことを示唆しているのではないのでしょうか？



しかし、一 立ち止まって自分自身に してみましょう。なぜ私たちは救 を信じなければ  
ならないのでしょうか？

一方で、原罪は信じようが信じまいが、 的であると信じられています。また一方では  
、救 はイエスの十字架へのはりつけと 罪を めた（信じた）上での条件付きとなってい  
ます。前者において、信じることは であり、 者ではそれが要求されます。ここで疑 が  
浮かび上がります。「イエスはその代 を ったのだろうか？」もしそうなのであれば、  
信じようが信じまいが、私たちの罪は われているはずで、代 を っていないのであれ  
ば、どちらにせよ なくなります。最 になります、赦しとは のないものです。他人の  
借金を しつつ、返 を要求し けることなどは出来ません。神自身はそれを求めないと述  
べているにも わらず（ホセア6:6、マタイ9:13と12:7参照）、神がお赦しになるのは 牲  
を捧げた 合のみであるという は、到底理にかなった分析ではありません。そのような  
方程式が一体どこから来るといえるのでしょうか？

典（既述されたように、原本に 一性を欠いた、匿名の 典ですが）によれば、それはイ  
エスではないのです。さらに、キリスト教徒にとっての救 の方程式は、原罪の概念か  
ら派生したものであり、もし他のキリスト教の方程式を できないのなら、私たちはな  
ぜその概念を信じなければならないのかと疑 を呈すべきなのです。

しかし、それはまた の です。

署名 み

匿名（冗 です）

Copyright 2008 Laurence B. Brown—used by permission.

????????? [www.leveltruth.com](http://www.leveltruth.com) ?????????? MisGod'ed ???God'ed????????????????? Bearing True  
Witness ?????????????? Amazon.com?????????????????

---

脚注：

1 Ehrman, Bart D. *Lost Christianities*. p. 3, 235. Also, see Ehrman, Bart D. *The New Testament: A Historical Introduction to the Early Christian Writings*. p. 49.

2 Ehrman, Bart D. *Lost Christianities*. p. 3, 235. Also, see Ehrman, Bart D. *The New Testament: A Historical Introduction to the Early Christian Writings*. p. 49.

3 Buttrick, George Arthur (Ed.). 1962 (1996 Print). *The Interpreter's Dictionary of the Bible*. Volume 4. Nashville: Abingdon Press. pp. 594-595 (Under Text, NT).

4 *Ibid.*, *The New Testament: A Historical Introduction to the Early Christian Writings*. p. 12.

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/1774>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。